

発表題目：
もめごとを通じた相互行為と独自の文化の形成
——スペインの右派ポピュリズム政党支持者のエスノグラフィ

所属：東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻

氏名：池北 眞帆

1200 字程度で発表内容を記載してください。

【目的】本発表は、2013 年末に設立し、2018 年以降台頭したスペインの右派ポピュリズム政党「ボックス（VOX）」支持者を研究対象として、彼らのもめごととの対処にまつわる日常的実践に迫ったエスノグラフィである。発表の目的は、社会においてしばしば極端と分類される政治的考えを持つ者が、日常生活で直面する対立やその回避をめぐる相互行為について論じることを通じて、右派ポピュリズムの支持者の生活目線でのリアリティに迫ることである。こうした研究におけるエスノグラフィックな方法の有効性は、たとえば、クリス・ハンが *Anthropology Today* における「人類学とポピュリズム」特集号（2019 年 2 月）で主張したとおりである（Hann 2019）。本発表では、具体的に以下の二つの課題を設定した。（１）支持者らの日常生活におけるもめごとをめぐる周囲との相互行為について論じること、（２）発表者が調査を行うにあたり、研究対象者とのもめごとやその回避をめぐっていかに対処したのかについて具体例を通じて論じることである。このような研究をおこなう理由は、スペインの右派ポピュリズムをめぐる研究において、支持者のリアリティと向き合う必要があると考えるからである。国内外の学術雑誌を見れば、供給側（政党・政治家側）の言説分析、需要側（有権者）の投票行動の計量分析などが重要な研究課題であることがわかる。しかし、既存の研究からは、人びとが求めている「本音」は見えてこない。また、世界各地で席卷している右派ポピュリズムに関するメディア報道では、特異な政治的思想を持つものとしての極端な側面に焦点をあてられがちである。しかしながら、特定の政党の支持者らの政治的な考えがいかなるものであっても、彼らは社会におけるごく普通の生活者のひとりである。それゆえに、支持者としての考えが形作られる場としての、もめごとをめぐる日々の実践に着目する意義がある。

【方法】本発表のデータは、2023 年 4 月から 8 月までの期間、スペイン北部の地方都市において発表者が行った、支持者へのライフストーリーの聞き取りとり及び、参与観察を主に使用した。それらもとに、支持者がいかにしてボックス支持をめぐる意味世界を築いているのか、分析と考察を行った。

【結果・結論】調査の結果、支持者らにとって、特定の政党の支持者であるがゆえに生じる周囲との対立をいかにして回避したり和らげたりするのかということが、日常生活における重要な関心事の一つであることを確認することができた。そして、支持者がそうしたもめごとをめぐって相互行為を周囲との間で行う中で、日々、周囲の文化を借用したり拒絶したり（モース 2018）ながら、自己の定義、再定義を繰り返して政党支持をめぐる独自の文化を作り出していることが明らかになった。

【引用文献】Hann, Chris, 2019, “Anthropology and populism,” *Anthropology Today*, 35(1): 1–2.
モース、マルセル、2018、森山工訳『国民論他二篇』岩波文庫。